

## 保育計画成果報告書

法人名	学校法人 大塚学園
施設名	リトルメイト保育園
報告者（役職）	高山 真実（保育士）
住所・連絡先	広島県広島市中区光南 2 丁目 1 4 - 1 2
	TEL 082-244-2525
	E-mail little-mate@yoshijima.ed.jp

### ○タイトル（保育計画）

日常の保育から親子ふれあいあそびへ。

### ○主な助成備品

JP クッション（G500）、JP クッション（K・200L）、ソフトステップ、  
かるかるマットシリーズ、テンダーくねくね平均台（小V型）

## 1. 実施した保育計画策定の目的

リトルメイト保育園では、子どもたちが心身共に健やかに成長できるよう、動的なあそびを日常保育の中に積極的に取り入れている。

ワニさん（子どもが四つん這いになり保育者が手押し車で前進する）、オットセイ（腹ばいになり両手で両足を持って体を反らせる）、コアラ（保育者の腕に両手でつかまりぶら下がる）、おさるさん（保育者と向き合い手を握りでんぐり返しをする）、おうまさん（高這い）などいろいろな動物に変身するあそびや、体を使ったゲームを行うなどして、日常生活ではあまり使われない筋肉を遊びながら動かすことで、支持力、跳躍力、懸垂力、逆さ感覚などを身につけていくことを目的としている。

また、乳児期（3歳未満児）に全身を使ったスキンシップや運動あそびを習慣的に行うことにより、幼児期（3歳以上児）の全身運動や集団あそびへとつなげていくこともねらいのひとつとする。

助成備品の JP クッション（12センチ程の厚さの柔らかいマット）は上に立つと、ふわふわして足が沈み込み、不安定な姿勢から無意識のうちにバランスをとろうとする。体勢を取り戻そうとする無意識の動作で、足、腰の筋肉が自然に鍛えられるという効果も期待できる。平均台からクッションに向けて跳んだり、いくつかのクッションを並べて両足跳びで飛び移るなどの運動あそびで跳躍力を、また、トランポリンのような弾性があるので、クッションの上でジャンプを繰り返したり、幅の狭い平均台のようなクッションを渡り歩くことでバランス力や集中力を養うことを目的とする。

ソフトステップ、かるかるマットシリーズ、平均台も同様に、あそびの中から、楽しみながら体づくり、平衡感覚、身体能力の向上を目的とする。

このようなあそびを日常保育に取り入れながら、年間を通してこの運動器具を活用し、親子参加型の園行事『親子ふれあいあそび』に繋げていく。

## 2. 具体的な実施内容

### <JP クッション>



JP クッションを並べて、両足跳びで飛び移る。少しずつクッションの間隔を広げていき、楽しみながら跳躍力を養えるようにする。



また、JPクッションを台の傍に置き、台から飛び降りる際の着地点の目標となるようにする。子どもたちはねらいを定めて飛び降りることができる。



幅の狭いJPクッションを平均台のように並べて、橋に見立て、海の中のワニさんに食べられないように渡ること、落ちないようにバランスを取りながらも、視線を足元とは別の場所（保育者）へやり、視野を広げていくことをあそびの中で身につけていけるようにする。



日常の保育の中で子どもたちの大好きなあそびを、園行事『親子ふれあいあそび』へと繋げ、保護者の方とのふれあいを楽しめるようにと計画した。

### <かるかるマットシリーズ>



マットは滑り台からの転落防止に使用するほか、様々な用途で使用しているが、特に自園では左の写真のように凹凸に設置して遊ぶことが多い。

低月齢児は、ハイハイを促すために、凹凸のあるマットを上り下りするよう誘い掛け、腕、腰、足などの力をつけられるようにしている。



歩行が確立したら高低差を大きくしていき、斜面の上り下りを経験する中で、調整力を養えるようにする。

#### <くねくね平均台>



この平均台は、上を歩いて渡ることの他、低月齢児はまたいで腕と足の力で前へ進んだり、這って下をくぐったりすることで、手足の筋力強化、ボディイメージにつなげていく。

#### <ソフトステップ>



間隔を開けて階段状に設置し、落ちないように意識することで集中力、バランス感覚を養えるようにする。また、慣れてきたら少しずつ間隔を広げたり、凸凹の並べ方に変化をもたらしたりすることで、繰り返し挑戦する楽しみが生まれる。

### 3. その成果と評価

これらの運動あそびを日常の保育の中に取り入れ遊ぶことにより、平衡感覚、身体能力の向上だけでなく、保育者に見守られる中で少し難しいことにも挑戦してみようとする力、友だちとの身体の触れ合いへの喜び・楽しみの感情、順番を待つことの社会性等も育っていると感じられる。

### 4. 今後の課題と展望

遊具を助成して頂くことにより、このように子どもたちとのあそびの幅を広げることができた。今後もこうした運動あそびを繰り返す中で、子どもたちの心と体の成長を育めるよう、これらの助成備品を大切に扱い保育に取り入れていく。

以上